

「その人だから」多様性考える

大学生 佐藤 想楽

(愛知県 19)

私はこの春から大学生になり、色々な人と関わるようになった。年の離れた人、自分とは価値観の違う人、体に障害を持っている人などなど。こうした体験は、多様性について考えるきっかけになった。

性別、人種などの差別について、これまで私は特に関心を持っていなかった。高校までの生活では、そもそも関わる人は固定され、こうした問題とは程遠い生活を送っていたからだ。だが、大学では様々な人と関わるようになった。大学もジェンダーについての理念を掲げており、今さらながら考えるようになった。

私の考えは自分と相手の価値観の違いを知ることが大事だということだ。相手の意見を否定せず、そんな考えもあるんだなと受け入れることが大切。女だから、男だからではなく、その人だからと考えるべきだ。自分と価値観が全く同じ人はほばいない。だからこそ、違いを知り、受け入れ、尊重することが大切だ。

2025年5月9日(金)『朝日新聞』朝刊「声」掲載

この記事は朝日新聞社の承諾を得て掲載しています。

発言

～みんなの声～

次世代から

投稿前 一息ついてみて

草場 優花 大学生

(三重県朝日町) 18歳

交流サイト(SNS)を見てみると、誰かが傷つき悲しむのではないかと思うような、ひどい言葉を見つけたことがある。そのような言葉を見るたびに、ちよっぴり悲しい気持ちになる。

自分が正しいと思いたいあまりに、誰かを否定したり、マイノリティを罵倒したり。匿名という特殊性を持った空間が、それをしやすくさせているのだろう。

何かを投稿するときには、ちよっと立ち止まって考えてみてほしい。「その言葉を読んで、少しでも悲しくなる人はいない？」と自分に問いかけてほしいと思う。

言葉が持つ力は偉大だ。愛情や優しさにあふれた言葉は、人の心に一生温かいものを残すことができる。しかし、悪意ある言葉は、たったひと言、1行の文で人の命を奪つこともある。私たちはどんなときも、そのことを心に留めておくべきだ。

2025年7月1日(火) 中日新聞より

この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。